

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発研究事業）
（分担）研究報告書

外科領域における抜本的なタスクシフティングの手法についての研究
研究分担者 掛地吉弘 神戸大学大学院医学研究科 食道胃腸外科学 教授

研究要旨

タスクシフトの一翼を担う特定行為を行う看護師の特定行為研修容の内容について議論を行い、現在の 38 行為から外科術後病棟管理において必要な 9 項目を抽出し、パッケージ（案）を作成し、厚生労働省に提出した。2018 年 12 月 5 日に開催された第 19 回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会で内容について議論され、その後了承された。また、手順書の先行事例を参考にしながら、クリニカルパスをベースとした包括指示書（案）を作成した。

A．研究目的

本研究においては、平成29年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2017」において、医療現場におけるタスク・シフティング(業務の移管)等を推進することとされていることも踏まえ、外科領域における抜本的なタスク・シフティングの手法について研究することで、外科医等の働き方改革を進めることを目的とした。

B．研究方法

一般社団法人日本外科学会外科医労働環境改善委員会との連携及びNCDのデータを活用し、タスクシフト推進に係る現状調査及び推進案について検討する。

C．研究結果

一般社団法人労働環境改善委員会と合同の会議を行い、外科術後病棟管理における特定行為群研修内容のパッケージ化内容について検討し、改定案を作成した。改定案は2018年12月5日に開催された第19回医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会で内容について議論され、その後了承された。また包括指示書については、公開されている手順書の先行事例等を参考にしながら、クリニカルパスをベースとした包括指示書（案）を作成した。また、クリニカルパスがない場合のタスクシフトについても検討した。

D．考察

タスクシフトをより推進するためには、特定行為が可能な看護師を育成する

ことが極めて重要である。現時点では目標人数に及ばず、育成における課題解決が必要である。その一因としては、特定行為研修の内容が多いため、各医療機関での勤務を長期間休む必要があり、所属の医療機関や当該者への負担が大きかった。今回の研修のパッケージ化により、外科術後病棟管理に関して現場で必須の手技を中心的かつ効率的に学ぶことができると思われ、特定行為が可能な看護師の増加についてはタスクシフトの推進に資すると考える。

また、クリニカルパスをベースとした包括指示書についてもゼロベースで各施設が作成することは困難と思われた。本研究班がたたき台のようなものを示すことにより、各施設における包括指示書作成についての検討も盛んになり、タスクシフトの推進へ向けた取組の活発化が期待できる。

E．結論

今後は、本研究班の示した成果物を参考にしつつ、安全面に配慮した抜本的なタスクシフトを推進していくことが期待される。

F．健康危険情報

総括研究報告書に一括記載

G．研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H．知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし